

VOL. 2 たむらの財政入門

～Challenge for TAMURA 2045～

10月のテーマ：義務的な経費

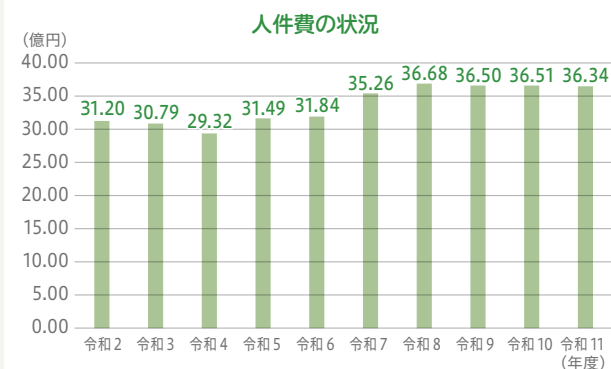
今月は、9月号でも触れました「人件費」「扶助費」「公債費」を個別に見てみます。

1 人件費

まずは「人件費」です。今の世の中は、賃上げの影響から、民間の給与水準は上昇傾向にあります。市役所の職員も同様で、近年、給与アップを行っています。

このような中、グラフでは今後の人件費は横ばいか、やや下がるとなっております。今、国も地方も税収が伸びておりますので、おのずと財政規模は大きくなりますが、市の人件費はさほど伸びていません。

これは、個々の職員の給与はアップするのですが、トータルでは大きな伸びはなく、「定員管理」という職員数の適正化をしっかりと進めている証しでもあります。事務の効率化、DX の活用も進めながら、限られた職員数でも、ふさわしい市民サービスを継続できるよう取り組みます。



3 公債費

最後は「公債費」です。これは借金の返済です。市が各種事業を進めるときは、その年の収入でその年の支出をまかなう、これが基本になります。いわゆるハード事業は、市民がこの先、施設や道路などの恩恵を受けるため、将来世代にも必要な負担をしていただくという考え方から、起債（借金）をして財源を確保し、その後10年、20年かけて借金を返済していくことになります。しかし、行き過ぎた公債費の負担は、その後の財政を圧迫しますので、注意が必要になります。

7年度の地方債（借金）の現在高、折れ線グラフが一番高くなっている部分は216億2,200万円、これが市の借金のピークでした。11月のオープンを抑える、新しい市民病院を建てたことによるものですが、ここでピークを越えたため、公債費の負担割合は今後減少します。

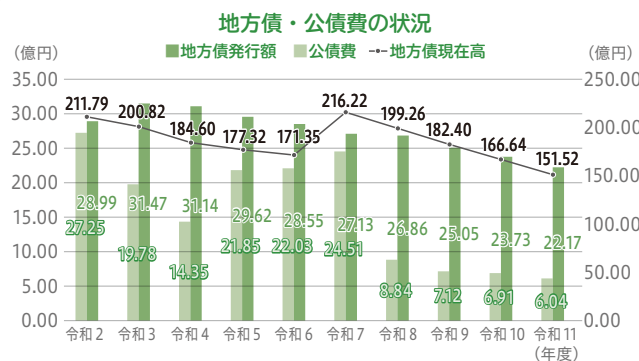
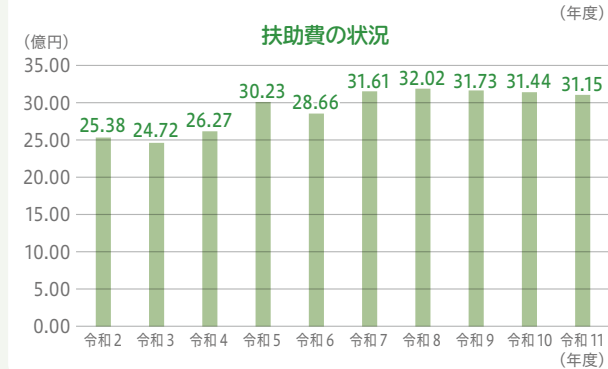
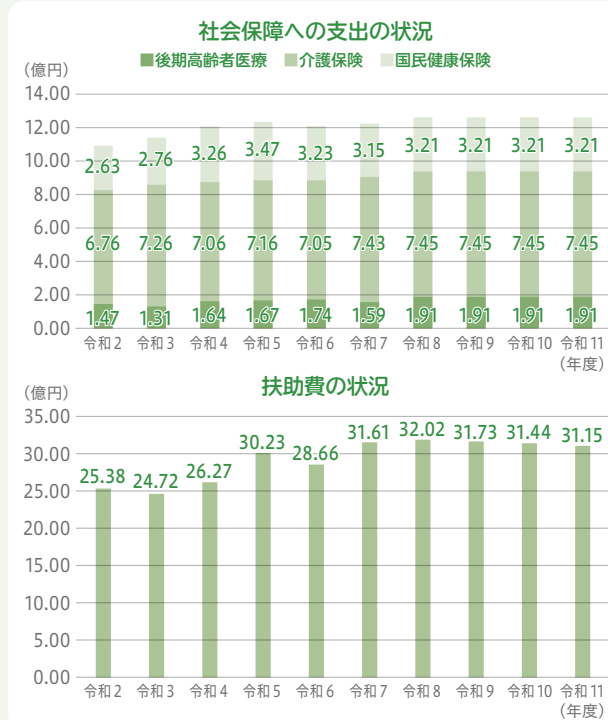
市がさまざまな公共施設や行政サービスの提供をするために、税金などのお金を集めて管理し、必要なお金を支払っていく活動を財政といいます。

市民の皆さまに、市がどんなお金を集めて、どのように使われているのか。さらには、今後こういった取り組みが必要となるのかを知っていただくため、9月号から全4回に分けてお伝えします。

問 総務部 財政課 ☎81-2118

2 社会保障関係費・扶助費

次は「社会保障関係費」です。高齢人口の増加に伴い、医療保険や介護保険の公費負担分は増加傾向で、高止まりとなっている姿を表しています。同様に、生活保護や障害福祉サービスに関する経費である「扶助費」も高止まりの様相を呈しています。



第13回市町村対抗福島県ソフトボール大会

本市代表チームが、大会に挑みます。ご声援をお願いします。

- 1回戦 10月10日(土) 午前9時 ● 場所 相馬光陽ソフトボール場(相馬市)
- 対戦相手 川俣町 対 新地町の勝者

【選手団名簿】

役職・位置	氏名	出身地
代表	佐藤 輝男	船引町
監督	吉田 敦	常葉町
コーチ	山中 一功	都路町
コーチ	先崎 繁人	滝根町
主将	吉田 勝	常葉町
投手	齋藤 誠	船引町
	渡辺 匡	都路町
	永崎 湧貴	滝根町
	吉田 勝宏	都路町
	坂本 亘平	都路町
	山中 大雅	都路町
	蒲生 哲也	滝根町
捕手	佐藤 啓	滝根町
	金沢 克八	都路町
	蒲生陽南太	滝根町

役職・位置	氏名	出身地
内野手	会田 栄	滝根町
	佐久間亮太	都路町
	三瓶 侑寿	常葉町
	佐藤 陸利	船引町
	宗像 亮太	船引町
	本間連玖斗	都路町
	会田 燈和	滝根町
外野手	根本 紘人	船引町
	舞木 健太	都路町
	名古屋隆之介	滝根町
	本間 大翔	都路町
	實澤 駿	船引町
マネージャー	樽井 藍	船引町
トレーナー	高橋 延幸	郡山市



注目選手から一言



やまと
本間 大翔 選手

市を代表して大会に出場できることを大変光栄に思います。去年は3位という悔しさの残る結果だったので、今年はその成績を上回れるよう、チーム一丸となって全力で戦います。応援してくださる皆さんに良い報告ができるよう、最後まであきらめず頑張ります。

ちょこっと

エコライフ ～身近な省エネを実践しよう!～

vol.38 秋はタイヤの空気圧も下がる!? 月1回のチェックで賢くエコに

みなさんは、自分の車の燃費を把握していますか? 燃費を知っておくと、車の変化に気づきやすくなります。秋になって燃費が少し悪くなったと感じたら、その原因の一つはタイヤの空気圧かもしれません。

ガソリンスタンドでこまめに空気圧をチェックしている方は少ないのではないのでしょうか。気温が下がるとタイヤ内部の空気の圧力も下がるため、秋はタイヤの空気圧が低下しやすくなります。一般的な乗用車用タイヤでは、1か月で空気圧は約10～20kPaも自然に低下していきます。これに加えて、気温が10℃下がると空気圧が約7～10kPa低下すると言われています。空気圧の低下に気付かず指定空気圧より50kPa不足したとすると、市街地で約2%、郊外で約4%も燃費が悪化するという試算もあります。走行条件によっては、年間約6,000円のガソリン代が余計にかかり、約80kgのCO₂を余分に排出する計算になります。

さらに、空気圧が低い状態での走行は、タイヤの寿命を縮め、パンクやバーストの危険性も高めます。空気圧のチェックはタイヤ交換の時だけではなく、月に1回を目安に、ガソリンスタンドなどで点検してもらえば、環境とお財布に優しいだけでなく、重大な事故の防止にもつながります。お出かけ前の「空気圧チェック」からスマートなエコドライブを始めてみませんか?

(獨協大学国際環境経済学科1年 明平)



タイヤの空気圧調整による燃費向上効果と節約効果の算出根拠はこちらから▶



今月のごみ量 (7月分)

- 1日1人あたりのごみの量: 875g ● 田村市のごみの量の目標: 750g
- 目標達成まで、あと125g減! ※先月のごみの量と比べて、5g増!

